

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立外手小学校
校長名	柿沼 広美

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・51観点中、全国平均正答率より上回ったものが47観点であり、全体の92.1%であった。(昨年度84.3%)・全国平均正答率より上回った49観点中、5ポイント以上プラスは36観点であり、全体の70.5%であった。(昨年度52.9%)・全国平均をどれだけ上回ったか+ポイントを昨年度と比較すると、第3～6学年の33観点中、13観点でより大きく全国平均を上回った。一部の観点を除き、学力向上は維持継続され、更に高まった。	<ul style="list-style-type: none">・全国平均正答率を下回ったものが4観点(5年理科の3観点、6年英語の1観点)であり、全体の7.8%であった。・目標値より低かったものが1観点(5年理科の1観点)であり、全体の1.9%であった。・下回った5年理科の学習内容の確実な習得、6年英語のさらなる学力の上積みが課題である。・4学年以上では、学力差が広がる傾向が見られるため、確実な習得、繰り返しの指導が必要である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「学習習慣」・「学習意欲」の項目は全学年が全国値と同程度若しくは上回った。・「発信力」の項目は全学年、「対話・話し合い」の項目は、3つの学年が全国値と同程度若しくは上回った。・「最後までやりぬく」の項目は、1つの学年を除いて、全国値と同程度若しくは上回った。	<ul style="list-style-type: none">・「学級の規範意識」、「対話・話し合い」の項目は、2つの学年(3学年・6学年)が全国値を下回った。・「家庭学習の時間」の項目は、2つ学年(3学年・4学年)で2極化が見られ、「まったくしない」の児童への学習習慣の定着が課題である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査(6学年)において、国語2観点、算数2観点全ての観点で全国平均を5ポイント以上(5.7～10.1ポイント)上回った。・1学年、2学年の授業規律、宿題の取組と提出状況はほぼ全ての児童ができています。・図書館を使った調べる学習コンクールには、第3・4学年が出前授業を受け、第4・5学年の全員、全児童の約4割が取り組んだ。	<ul style="list-style-type: none">・全国学力・学習状況調査(6学年)において、観点や解答方式と比較すると「思考・判断・表現」、「記述式」の正答率が低いため、「考え、表現する力」と付けることが課題である。・3学年以上の一部において、学習意欲を高め、学習規律や家庭学習習慣を確立させることが課題である。・学習コンテンツを有効に活用し、学習内容を定着させることが課題である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力調査の分析と授業改善の推進

学力調査の問題は、児童が身に付けるべき学力を具体化したものである。教員一人一人が調査問題に向き合い、内容や趣旨を理解することは、児童の学力向上と授業改善の糸口になると考える。学力向上委員会の主導により、各種学力調査の結果から本校児童の課題、教員の指導方法・計画の課題を洗い出す。学年・学級の集団としての分析に加え、児童一人一人の解答状況を分析することにより、集団と個の未習得・未定着を把握する。また、次年度の学年の調査問題を把握することにより、今年度の目の前の児童に何を指導し、定着を図ったらよいか重点を置いて指導を行う。さらに、教科部会において、調査問題を分析することにより、教科を縦系列で見ることができ、各学年、学級担任へ指導内容の系統を意識させ、学校全体で取りこぼさない指導を図る。「墨田区教師の授業スタイル」を全教員が理解し、児童が「分かる」「できる」「定着する」授業を行い、表現・アウトプットするまでを授業に的確に取り入れ、発展的な学習まで児童に力を身に付けられるようする。

(2) 家庭との連携を図った学習環境の確立

児童一人一人の学習状況調査結果に基づき、個人面談・保護者会等の機会の活用を図り、学校・家庭の相互理解を通してよりよい学習習慣を確立する。多くの児童は、学校の授業時間以外に学年に応じた時間の学習をしているが、基礎的・基本的な学習習慣の確立ができていない児童もいる。児童本人が学習への取り組み方を振り返り、立てた目標を児童、保護者、担任が共有し達成に向けて連携する。「ふりかえりシート」や学習コンテンツの計画的、効果的な活用を進め、取組状況を学級担任、保護者は把握し、児童を励まし意欲の持続向上を図る。学級担任・学年主任等を中心に、あらゆる機会を生かして指導助言を重ねていき、家庭学習の習慣化・継続化を推進していく。

(3) 一人1台端末活用を活用した学習の充実

タブレット端末を中心とするICT機器を活用した授業は、児童の関心・意欲・態度等を喚起し、よく分かる授業の実現につながる。タブレット端末等のICT機器は日常的に使用することで、児童が視聴するだけの受動的な学びだけでなく、ICT機器を活用してまとめたり、発表したりする能動的な学びが展開できると考えている。活用においては、教科における個別の知識・技能の定着を図るとともに、身に付けたことをどう使うかといった思考力・判断力・表現力の資質・能力も育成していく。「ICTを使うことが目的」となるのではなく、よりよく「ICTを手段として使う」ようにすることで学びに向かう力、人間性等も育成し、学力に結びつけていく。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・目標値に対しては、51観点中、51観点全てが上回るようにする。
- ・全国平均正答率に照らした、観点別平均正答率5ポイントのプラスを51観点中、36観点以上（全体の70%以上）にする。
- ・経年比較で全学年がプラス成長となるようにし、正答率を全体的に向上させる。